

第1章 山口県教育の推進

1 山口県教育がめざす目標



人は、夢や目標を抱き、それを実現しようとする過程で、
生き甲斐を感じ、充実感を得、豊かな人生を送ることができる。

中期目標：一人ひとりの夢の実現

山口県には、豊かな先見性、進取の気質、質実剛健の気風、郷土を愛し郷土に奉仕する精神とともに、若さに託し若さに期待する教育風土があり、それらを大切にしながら、本県ではこれまで、「夢と知恵を育む教育の推進」を基本目標に、また、目標を達成するための視点として、「3つの力」と「3つの心」の育成を掲げ、教育活動を展開してきた。

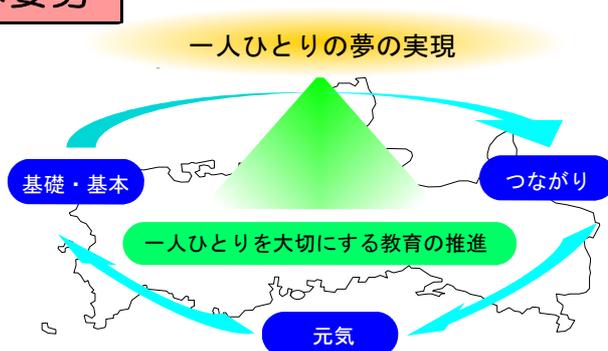
近年、未曾有の経済危機の発生など、変化の激しい、先を見通すことがますます困難な社会情勢になっている。

こうした時代だからこそ、子どもたち一人ひとりが、自らの可能性を見出し、社会の形成者としての役割を自覚しながら、それぞれの願いや思いを未来への大いなる夢へと創りあげ、それを実現しようとたゆまない努力をする、さらには、学校や家庭、地域は協働しながら、子どもたち「一人ひとりの夢の実現」に向けて一体となって支援する、そうした教育を一層推進することが必要である。

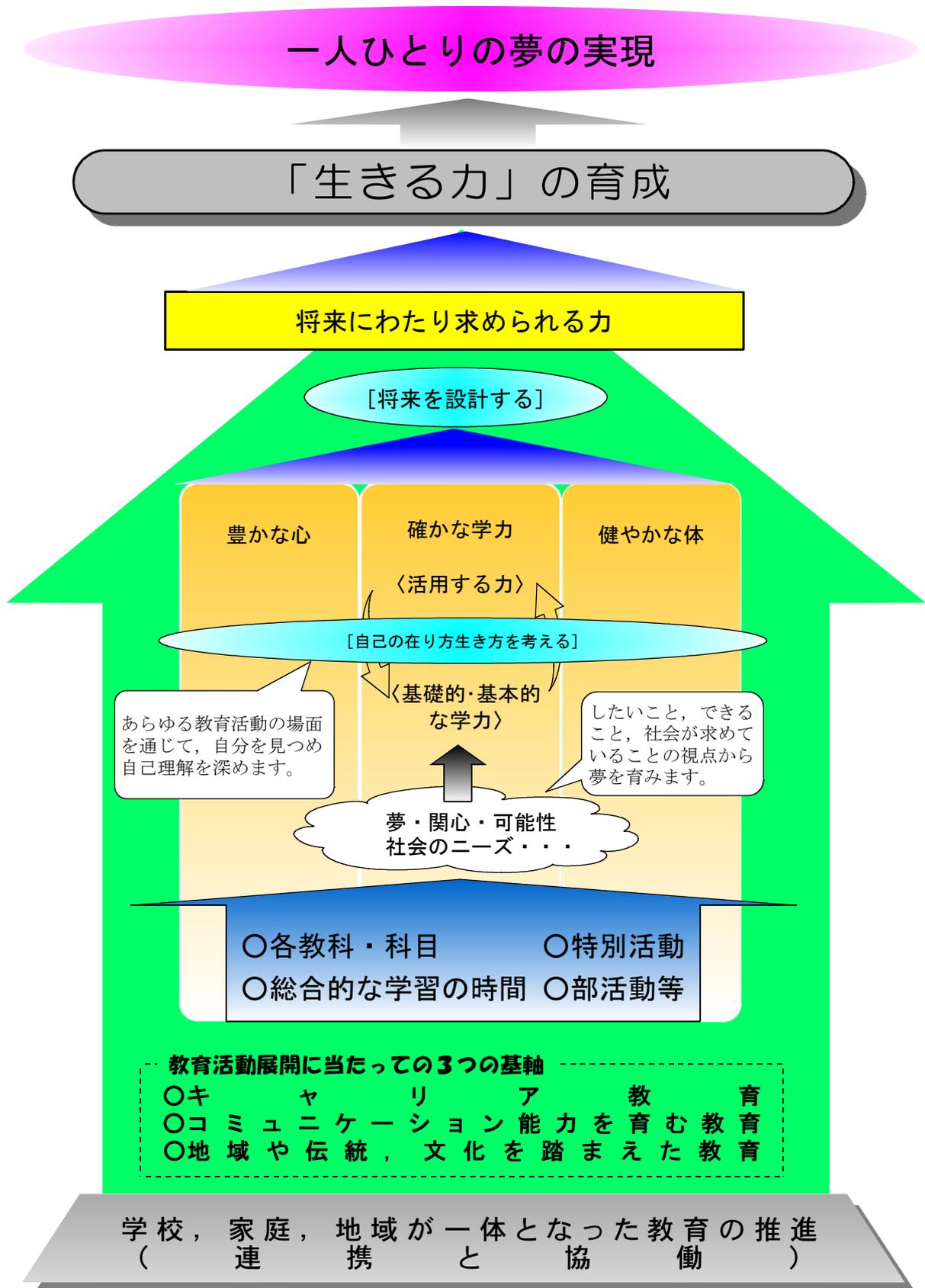
そのためには、まず、子どもたち一人ひとりを、かけがえのない個性や可能性を有する唯一無二の存在として大切に教育を推進することが、基盤としてなければならない。その上で「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」など、知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育むことが重要である。

2 教育活動を推進する上での基本姿勢

「一人ひとりの夢の実現」に向けては、学校、家庭、地域をはじめ、本県の教育にかかわるすべての組織や県民が、「元気」「基礎・基本」「つながり」の3つのキーワードを共有し、それぞれの力を結集して、一人ひとりを大切にする教育を推進する。



3 夢の実現のイメージ



1 キャリア教育

夢や目標をもち、一人の社会人として自立できるよう、自分にふさわしい生き方を実現しようとする意欲や態度、能力の育成

子どもたちが主体的に進路を選択できるよう、インターンシップなどの体験活動等を通じて、自己有用感や達成感を実感しながら、自らのキャリアをデザインしていく力を身に付けていく。

■ キャリア教育の進め方

発達段階に応じて
小学校段階から教育活動全体を通じての系統的な取組の積上げ

体験活動を重視して
職場体験、インターンシップ等の体験活動の充実

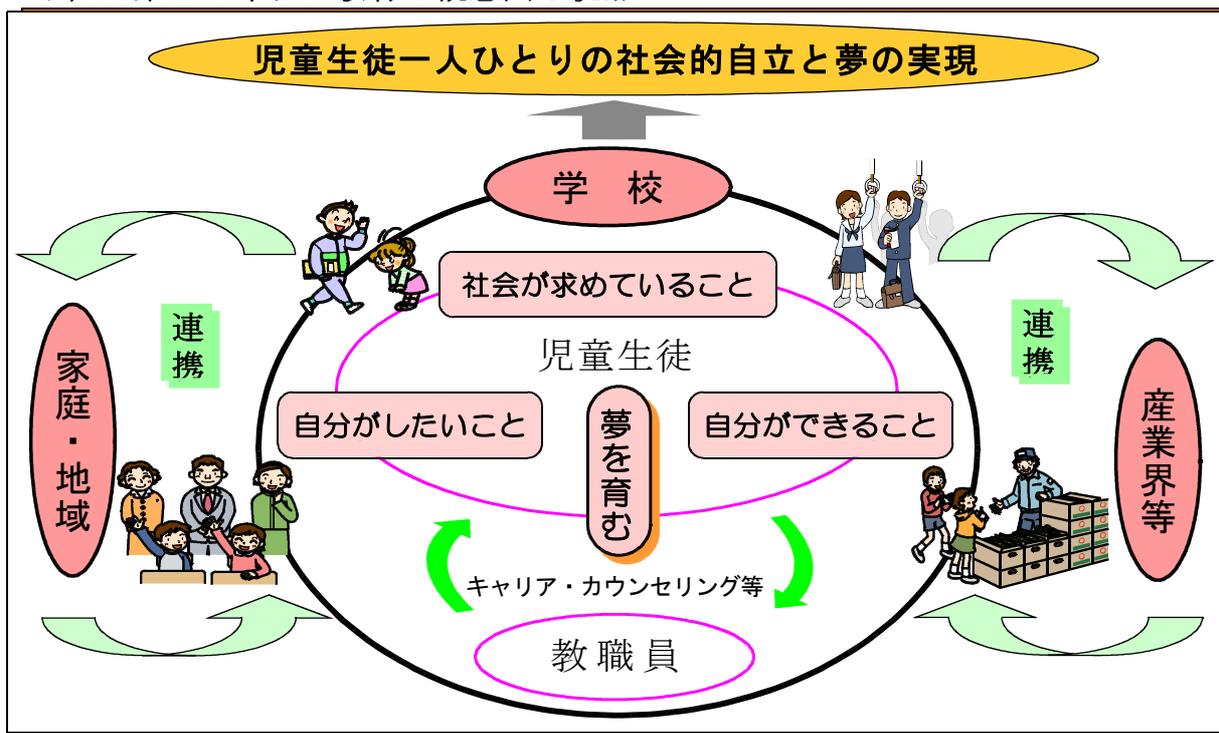
連携・協力して
学校と家庭・地域・産業界等との連携協力体制の強化

■ 取組の方向性

- 次の2つの能力の育成に重点を置いた指導の充実
 - ・ 夢や目標を具体化し、実現に向けた道筋を描いて進んでいく能力
 - ・ 社会人として生きていく上での基盤となるコミュニケーション能力
- 小・中・高を通じた系統的・計画的なキャリア教育の推進
 - ・ 児童生徒一人ひとりの進路希望や学習状況の確実な引継ぎ
 - ・ キャリア教育に関する情報を校種間で共有
- すべての学校で組織的なキャリア教育を推進
 - ・ 本県のキャリア教育についての共通理解
 - ・ 各学校の実態と児童生徒のニーズ等を踏まえた取組
 - ・ 発達段階に応じて、夢や目標を考える視点を踏まえたキャリア教育全体計画や年間指導計画の作成・見直し
- 学校と家庭・地域・産業界等との一層の連携
 - ・ 家庭や地域における取組の普及・啓発
 - ・ 「やまぐち教育応援団制度」を活用した体験的な学習の実施



◆ 山口県のキャリア教育の概念図と視点



■ 具体的な取組内容

(1) 小・中・高を通じた系統的・計画的なキャリア教育の推進

発達段階に応じて、夢や目標を考える（夢をデザインするための）視点

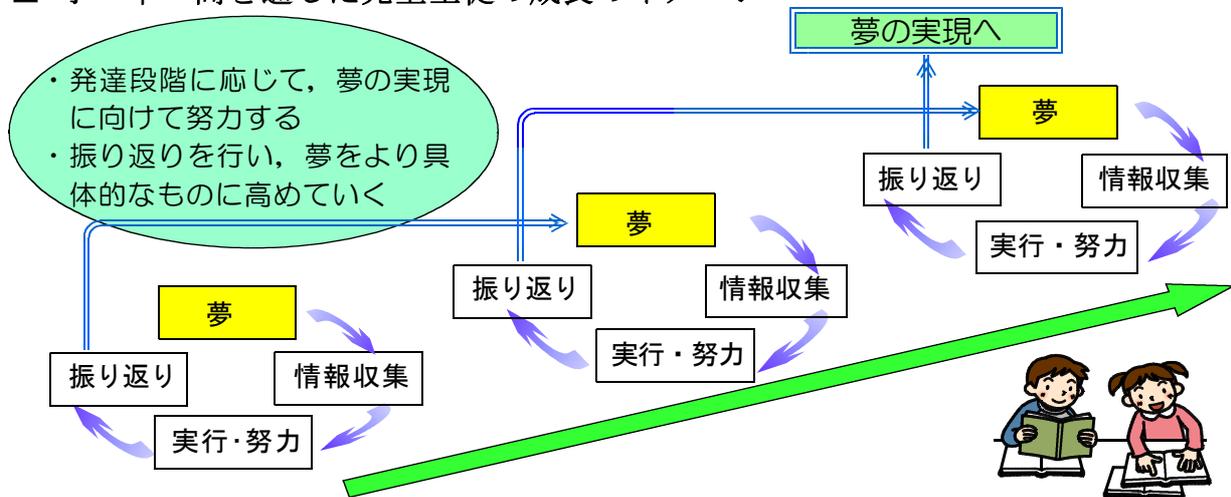
児童生徒の夢や目標の実現に向けて、3つの視点「自分がしたいこと」「自分ができること」「社会が求めていること」のバランスを図りながら、発達段階に応じて継続的な指導を行う。

発達段階 3つの視点	小学校（小学部）			中学校（中学部）			高等学校（高等部）		
	低学年	中学年	高学年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
自分がしたいこと	様々な体験等を通じて自分がしたいことを見つけ、将来の夢や目標につなげる								
自分ができること	夢の実現に向けて継続的に努力し、自分ができることを増やし自分のよさを伸ばす								
社会が求めていること	社会の一員としての自覚を深め、自分の役割を果たそうとする意欲や能力を高める								

(2) 学校と家庭・地域・産業界等と連携したキャリア教育の推進

<p>家庭や地域に対する働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 夢や目標の具体化を図るための家庭での対話促進 ○ あいさつなどの基本的な生活習慣を身に付ける取組の促進 ○ 家庭での役割を与えることによる自己有用感の醸成 ○ 幼児・高齢者などとのふれあい活動や、ボランティア活動、地域の行事への積極的な参加 	<p>産業界に対する働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 産業界と学校の相互理解の場の設定と連携の強化 ○ 職場見学、職場体験、インターンシップ等について協力依頼 ○ 学校で行う職業講話、マナー講習、生徒とのディスカッション等について協力依頼 ○ 「やまぐち教育応援団」の登録を依頼
---	---

■ 小・中・高を通じた児童生徒の成長のイメージ

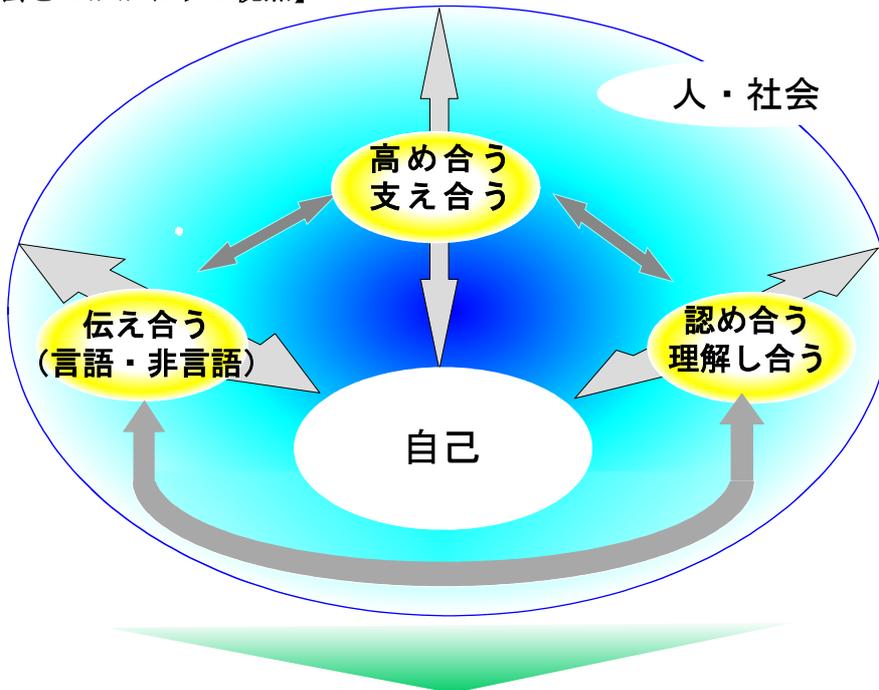


2 コミュニケーション能力を育む教育

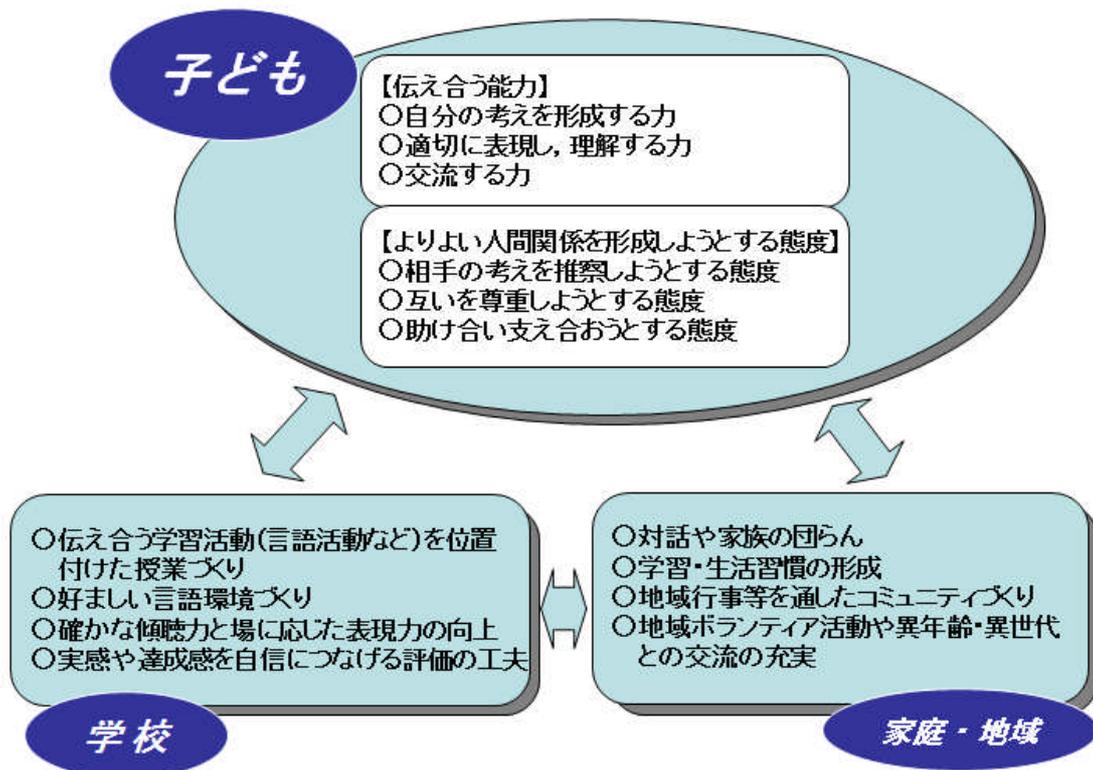
人や社会とのかかわりを通して、自他を尊重し、認め合い高め合う力の育成

子どもたちが周りの人々や社会とのかかわりを通して、自分はもちろんのこと、周りの人々も尊重する中で、互いに認め合い、理解し合い、支え合い、高め合うような力を身に付けていく。

【人・社会とのかかわりの視点】



【コミュニケーション能力育成の視点】



3 地域や伝統、文化を踏まえた教育

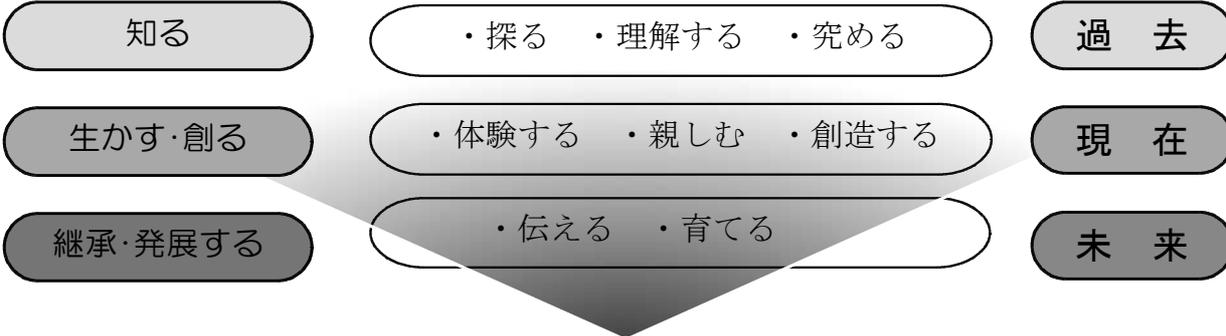
地域や伝統、文化に対する理解を深め、自らに生かし、ふるさとへの誇りと愛着をもちながら、継承し発展させようとする心や態度の育成

過去から、現在、未来へという時代のつながりの中で、子どもたちがふるさとへの誇りと愛着をもち、将来への希望や夢をしっかりとえがきながら、主体的に生きていく力を身に付けていく。

基本的な考え方

子どもたちは、生まれ育った地域とのつながりや、そこで培われてきた伝統、文化を、自らの「生きる力」の源として、自分の中に取り込み、自分の生き方と重ね合わせながら、創造的に発展・充実させていく。それらを通してふるさとを知り、誇りや愛着を育み、自分自身が次の時代の新たな担い手ともなっていく。

「地域や伝統、文化を踏まえた教育」は、このように「過去から現在、未来へ」という「つながり」を、子どもたちに託していくことをめざすものである。



- 自己を見つめ、自己理解を深める
- 将来への希望や夢をえがく
- ふるさとへの誇りと愛着をもつ
- 人間としての在り方生き方を考える

〈参 考〉

- 「地域」・・・自分が生まれ育った郷土や、現在生活している、または、過去に生活したことのある土地の人々・自然・産業・観光・特産品等
- 「伝統」・・・長い歴史を通じて培われ、伝えられてきた風俗・信仰・思想・学問・芸術等や、それらの中心をなす精神的在り方
- 「文化」・・・人間が自然に手を加えて形成してきた物心両面の成果や、衣食住をはじめ技術・学問・芸術・道徳・宗教・政治など生活形式の様式と内容等
- 「踏まえる」・・・郷土に愛着をもち、山口県民として自ら拠って立つ基盤である地域や伝統、文化を価値あるもの、尊いものとして大切にすること

5 連携と協働

学校、家庭、地域が一体となった教育の推進

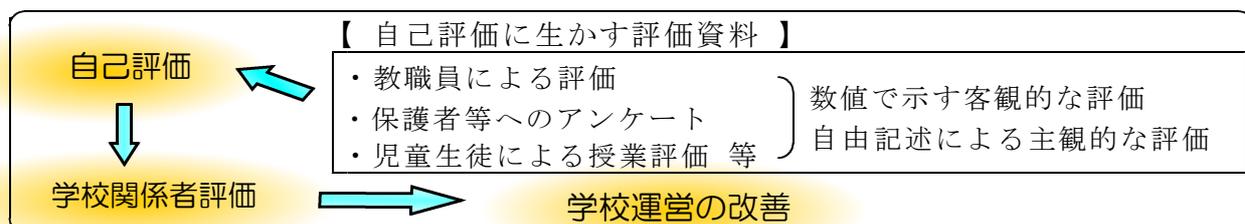
子どもたちに「知・徳・体」の調和のとれた「生きる力」を育むためには、学校、家庭、地域が連携・協働し、一体となって取り組むことが重要である。

そのためには、学校の現状や課題、教育方針等を家庭や地域に説明し共有するとともに、学校の取組に家庭や地域の意見や教育力などを積極的に取り入れることが必要である。

◆学校評価を生かしたつながりのある学校づくり

学校評価により保護者や地域から学校運営に対する理解と協力を得ながら、つながりのある学校づくりを進めていくことが求められる。

- 重点目標を中心に各項目の評価基準を明確にして取組状況の評価
- 評価結果を学校だよりやホームページなどで公表し、成果と課題を共有



◆地域の教育力の積極的な活用

地域の歴史・文化、自然、人材、施設など地域の教育資源・教育力を積極的に活用するとともに、学校の教育力を地域に生かすことが必要である。



幼保小中高の連携

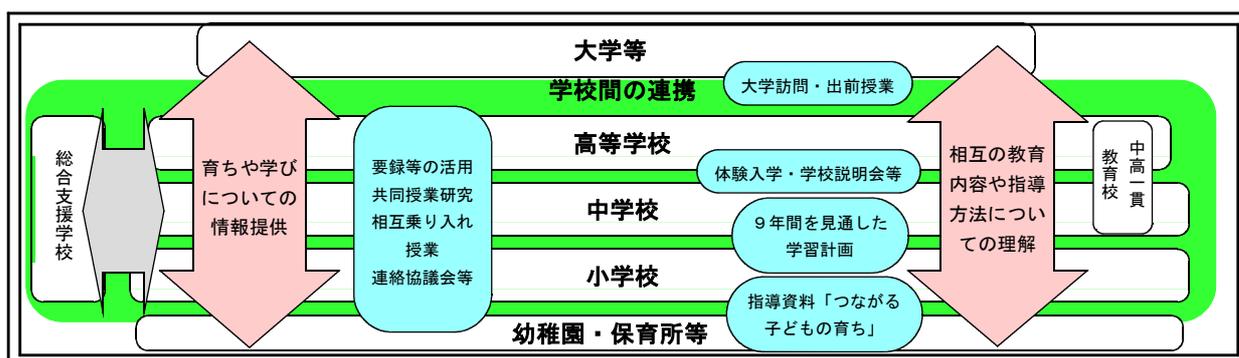
就学前教育から小学校、中学校、高等学校へと、それぞれの立場で一人ひとりの子どもの育ちや学びを連続したものととらえ、課題を共有しながら指導を充実することが重要である。

【連携のポイント】

- 育ちや学びについての情報を共有する。
- 相互の教育内容や指導方法についての理解を深める。

【学校における具体的な取組例】

- 保育要録や指導要録、個別の教育支援計画等の確実な引き継ぎと、活用
- 合同の連絡協議会や研修会を設定、充実
- 共同授業研究や相互乗り入れ授業の実施

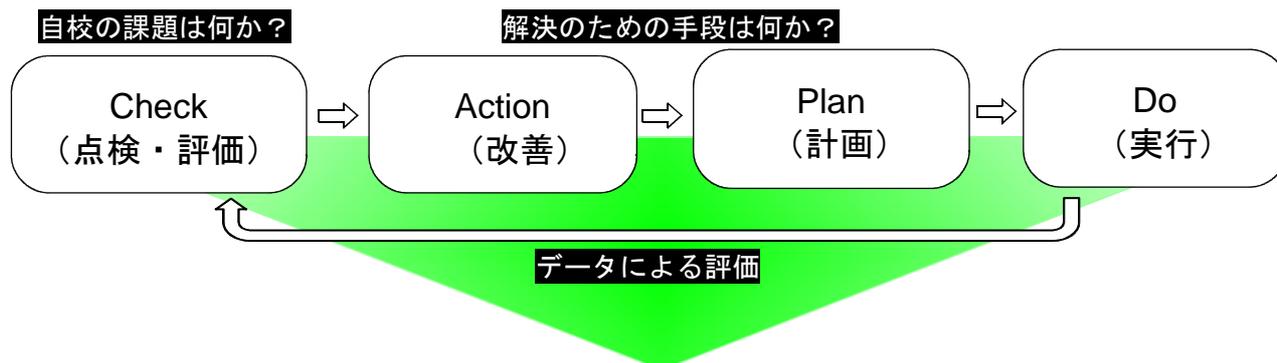


6 カリキュラム・マネジメント

カリキュラム・マネジメントの意義

学校教育目標の達成のために、教育内容・教育方法と学校内外の諸条件（生徒、教職員、地域や保護者、施設・設備等）や強みを結び付け、教育課程を編成し、展開していくことによって、学校の教育の質を高めていくことが重要である。

カリキュラム・マネジメントを実施するには



カリキュラム・マネジメントを行う上でのポイント

